

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士前期課程
授業名	微生物・ウイルス・免疫学特論			
開講キャンパス	紀三井寺	教室	基礎教育棟 3 階講義室 2 中講義室 3 0 4	
科目区分	専門科目	配当年次	1 年次	
必修・選択の別	選択	単位	1 単位	
対象学生	－	使用言語	日本語	
キーワード	病原微生物、ウイルス、細菌、自然免疫			
担当教員 （下線：科目責任者）	医	講師 佐々木 泉、講師 太田圭介		
	薬			
授業の概要	新たな感染症への対策が地域の保健医療課題として重要となっている昨今の状況を踏まえ、微生物・ウイルス・細菌及び免疫に関する最新の知見を学ぶとともに、研究用微生物の取扱いについて理解を深める。また課題の解決に向けて自ら考えて取り組む力を培う。			
到達目標	☐新興感染症や再興感染症を引き起こす微生物についての基礎的知識を修得する。 ☐感染症の原因となるウイルスの基本的性状や病原性に関する知識を修得する。 ☐細菌の構造、生理、遺伝、病原性、化学療法についての基礎的知識を修得する。 ☐自然免疫と獲得免疫がどのように制御されているかを理解する。またその破綻によりどのような病態が生じるのかを理解する。			
授業計画	1．免疫学概論(1)（佐々木泉／1回）【6/4 6限】 2．免疫学概論(2)（佐々木泉／1回）【6/4 7限】 自然免疫と獲得免疫がいかに制御されているか、またその破綻によりどのような病態が生じるのかを概説する。 3．4．ウイルス学総論（太田圭介／2回）【6/11 6限・7限】 感染症の原因となるウイルスの基本的性状や病原性について解説し、理解を深める。 5．6．新興・再興感染症（太田圭介／2回）【6/18 6限・7限】 新興感染症や再興感染症を引き起こす様々な種類の微生物の病原性について理解を深めるため、基礎的な知識を解説する。 7．8．細菌学総論（太田圭介／2回）【6/25 6限・7限】 細菌、特に病原性を示す様々な細菌の構造や生理、遺伝、病原性、化学療法について理解を深めるため、基礎的な知識を解説する。			
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。			
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。			
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。			
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。			

オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】特に指定しない。